

セッション	B. 語彙論：語の形成 (2014.3.22 於 北京日本学研究中心)
タイトル	中日辞書に収録される三字語—接尾辞による造語を中心に—
著者名(所属)	楊 超時 (北京外国大学日本語学部)
連絡先 Eメール	chaoshi@live.cn
<p>論文内容</p> <p>接尾辞による造語はどの言語においても、注目されているものである。日本語の中で、漢語接尾辞の用法は江戸末期から明治にかけて、西方書籍の伝来によって大いに発展してきた。それに対して、中国語の中での接尾辞による造語はその後のことだったと考えられる。特に 20 世紀のはじめ頃、いわゆる現代文に「～性」「～化」「～上」「～的」などの三字語の出現は明治期の接尾辞の用法とも関係している。ところが、日本語は漢字かな混じり文なので、漢語接尾辞が容易に判断できる一方、中国語は独立語であるため、詞の判定さえ問題となっている。中国語の語彙研究において、接尾辞、つまり(後綴)の研究は用法をはじめ、さまざまな問題が残っている。近年、史的観点から接尾辞を研究し始める研究者も現れたが、中国語の接尾辞の研究はまだまだ先が長いと思われる。新しい観点と角度からの研究が、これからの漢語研究に必要なものであろう。今回参加させていただいた研究プロジェクトを通して、中日両国の現代語における中日同形語を考察するチャンスがあった。辞書を調べるうちに、両国の辞書にどんな三字語が収録されているのか、どうしてこのような三字語が収録されているのか、三字の同形語がどれだけ収録されているのかなどの問題について考え始めた。それで、このような問題を通して、接尾辞の判定、特に中国語の接尾辞の判定にヒントを与えられるかもしれないと考えている。</p> <p>研究プロジェクトで使われている二次的言語資料「日本語の特有の漢語語彙表」(21952 見出し語)から三字語を特定する。これらの三字語は日本語の辞書だけに収録される三字語とみなす。三字語の造語パターンから考えると、①「□□+□」、②「□+□□」、③「□+□+□」の三種類に分けられる。今回はその①類の見出し語、計 3661 語を研究対象とする。さらに、これらの三字語は具体的に日本語辞書に収録される接尾辞による造語であるかを判定し、分析する。</p> <p>今回の考察は主に三つの角度から行われる。</p> <p>(1) 接尾辞の判定：日本語辞書に収録される(□□+□)の構成である三字語はすべて接尾辞による造語とは言い切れない。たとえば、「～寺」は確かに□□+□の構成ではあるが、「寺」という形態素はそもそも実質の意味が強く、「本願寺」「道明寺」などの三字語も専門用語であり、接尾辞としての生産性が見られない。それでこのような三字語は接尾辞による造語と判定できない。今回の考察はこのような三字語を除いて、日本語辞書だけに収録される接尾辞による造語を統計することから始まる。</p> <p>(2) 接尾辞の品詞性：日本語辞書に収録される三字語の接尾辞の品詞性を考察する。もっとも多く収録される接尾辞はどんなものなのか考察する。語彙の品詞性を変えることは接尾辞の大きな特徴である。どんな品詞性の接尾辞がもっとも辞書に収録されるものなのか、中国語の辞書と比べる時に使える。</p> <p>(3) 比較：日本語の接尾辞とはいえ、必ずしも中国語の接尾辞とは無関係である。『現代漢語詞典(第五版)』の見出し語と比べ、同じ収録されるもの、収録されないものを調べる。収録されるものはすなわち、中日両国の辞書に収録されるものと判定し、収録されないものは日本語特有の接尾辞と判定できると考えられる。</p> <p>3661 見出し語を考察し、中では、接尾辞による造語と判定できるのは 367 語である(異なり語数)。すなわち、接尾辞と判定できるものは 367 個である。これらの接尾辞はほぼ名詞であることがわかる。中には字音形態素としてのものが最も多く、少数ながら、字訓形態素も存在している。たとえば、「～巻き、～取り」などである。それから、中国語の辞書の見出し語と比べれば、半分以上の接尾辞は中国語に存在しているものの、その接尾辞による造語はほぼ中国語の辞書に収録されていないことがわかる。この状況から見ると、中日辞書に収録される三字漢語、特に接尾辞による造語はかなり違うことが考えられる。</p>	
<p>马庆株(1995)《现代汉语词缀的性质、范围和分类》中国语言学报第六期 商务印书馆 周荐(2003)《三字组合与词汇单位的确定》《语言科学》2003.5 朱京伟(2005)《日语词汇学教程》外语教学与研究出版社 野村雅昭(1974)「三字漢語の構造」『電子計算機による国語研究VI』秀英出版 野村雅昭(1978)「接辞性字音語基の性格」『電子計算機による国語研究IX』秀英出版 野村雅昭(1987)「複合漢語の構造」『朝倉日本語新講座1 文字・表記と語構成』朝倉書店</p>	